

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-722

③ 施設名等

名称：	高風子供園
施設長氏名：	高橋 理恵
定員：	33名 地域小規模児童養護施設3×6名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1946/3/7
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人白峰会
職員数 常勤職員：	33名
職員数 非常勤職員：	5名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	18名
有資格職員の名称（イ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（オ）	調理員等
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（カ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	居室6、地域小規模児童養護施設3
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室、静養室、医務室、調理室、相談室、交流室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

高風子供園は、キリスト教の精神に基づき、子ども一人ひとりを大切に、保護者、地域から信頼される児童養護施設を目指しております。

子どもはわたくしたちのたからです

たえずおとなによるこびと のぞみと ひかりをあたえてくれます

わたくしたちは まごころをもってひび よくそだてましょう

平野 恒

⑤ 施設の特徴的な取組

○子どもたちが社会に出た時に良好な人間関係を築くことができるよう、「セカンドステップ」に取り組んでいる。「セカンドステップ」は、1段階～相互の理解、2段階～問題の解決、3段階～怒りの扱いで、相手の気持ちを理解し、問題を解決し、感情をコントロールする教育プログラムである。今年度は専門の講師の協力のもと、子どもたちや職員がワークショップ（体験型のグループ学習）に取り組んでいる。

○子どもの成長には「食」が大切と捉え、子どもたちが好きなものをバランスよく食べられるよう献立を工夫している。栄養士や調理員も子どもたちとの接点を多く持ち、子どもたちのリクエストメニューを聴き取って献立に反映している。また、季節に合った行事食を提供し、特に子どもの誕生日には、希望するキャラクターで飾り付けた大きなパースティケーキを手作りしている。子どもたちはとても喜び、自分以外の子どもの誕生日でも、どんなケーキが出てくるか楽しみにしている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/9/6
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/2/16
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年度（和暦）

⑦総評

○昭和21年開園の歴史のある園で、多くの企業や支援者に支えられ、創設者平野恒のこば「おさなごにまなぶ」という姿勢を基本理念として、子どもの最善の利益を目指し、子どもたちの支援にあたった。

○現在、建物の老朽化に伴い、園舎の全面建て替えを行っている。子どもたちは、令和4年4月より、区外の仮設の園舎で生活を送っている。学校は転校せず、以前からの学校に通っているため、朝夕の通学は、職員が車を出して支援している。仮設の園舎での生活は不都合な部分もあるが、工夫しながら子どもたちが楽しく生活を送ることができるよう取り組んでいる。子どもたちは、令和5年7月（完成予定）に新しい園舎が出来上がるのを、とても楽しみにしている。

○子どもの権利擁護は、児童養護施設の支援の基本であることを全職員が理解している。毎月の職員会議で、養育について、その方法について、具体的な事例を通し、権利侵害がないかどうかを話し合っている。特に職員の言葉遣いについては、お互いに気になった時はその場で伝えるようにしている。

○子どもたちがそれぞれどのような体験をして、心の中ではどう感じているかを確認しながら、職員は一人ひとりを理解し、寄り添って対応している。時には、職員に暴力を振るったり、友だちに暴言を吐いたりする子どももいる。言葉で言えない子どもが行動に出てしまうことがあるため、職員は今子どもが何を思っているかを受け止め、時間をおいて対応したり、職員を変えて対応したりしている。毎日の話し合いの中で、その子どもの心の中で何が起きているのか、対応はどうだったかを振り返っている。

○子どもが自分でやろうとしている時には見守る姿勢を持ち、子どもたちと一緒に考えて、生活のルールを決めている。言われてやるのではなく、自分で考えてやってみることを基本に支援を行っている。

○食事作りや掃除、洗濯、整理整頓、金銭管理、健康管理などの生活習慣技術については、園内の各ユニットでの生活で習得できるようにしている。園は長い歴史の中で、大手企業や地域企業、多くの支援団体や個人の支援者がおり、社会に出る機会を作ってもらっている。プロ野球やサッカー観戦、銀行の内部見学体験、一流ホテルでの洋食のフルコース体験、バスでのハイキングなどを通して、社会規範を守ったり、食事マナーを学んだりする機会が多くある。子どもたちが卒園しても、この貴重な体験をこれからの生活の中で活かしてほしいと、感謝の気持ちとともに感じている。園行事のクリスマス会には、多くの支援者や卒園生を招いている。

○中学生から高校生になると、進路を真剣に考えるようになる。卒園生の話や聞いたりする中で刺激を受け、大学受験を決めて担当に相談している。大学進学を希望する場合は、自立支援の担当職員が奨学金や助成金の情報などを提供し、資金計画書を子どもと一緒に作成している。シュミレーションをしながら、一人暮らしの体験を園内の自立体験室で行い、大学受験に向けて準備している。また、卒園後のアフターケアの体制も整えている。

○家庭支援専門相談員2人体制で保護者に対応している。子どもの生活の様子や学校での様子など、保護者と連絡を取り、また相談支援を行っている。親の引き取りたいという気持ちと、子どもの帰りたいという気持ち一致する時は、児童相談所と家庭支援専門相談員を中心に、園全体で親子関係の再構築に取り組んでいる。園内の面会が安定してきた段階で、外出体験を行っている。家への外出体験の前には、児童相談所のケースワーカーと家庭支援専門相談員が家庭を訪問し、家庭の状況を確認している。受け入れの態勢が整っていれば、家への外出、園内での親子の宿泊体験、家での宿泊体験につなげている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度、三回目の第三者評価を受審致しました。本体施設を建て替えており、仮設での受審となりました。コロナにより生活様式が変わった上、慣れない土地、手狭で不便な生活の中、その対応や建築の打ち合わせなどに追われ、運営も養育も果たしてしっかりできていないのか不安でした。自ずと自己評価は下がり、bやcの目立つ自己評価結果を前に、訪問調査を受けました。そんな私たちの話を丁寧に聞いてくださり「できていますよ。」と言っていたき、救われる思いでした。次年度には、新しい建物に移り、新しい生活が始まります。また、暫くは手探りで運営、養育になると思いますが、応援してください。皆さまへの感謝と、子どもたちの気持ちを大切に頑張りたいと思います。今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。

【コメント】

法人の理念は、ホームページやパンフレットに記載している。職員には入職時に理念を説明し、「業務実践の手引き」を事務所に置いている。また、新人職員は入職前にアルバイトで実務を経験し、その中で法人の理念や基本方針を園長から説明している。子どもたちや家族には、入所のタイミングで家庭支援専門相談員から説明している。生活の様子はルビをふった「高風子供園について」で分かりやすく説明している。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b
【コメント】	
月1回、県内児童福祉施設の施設長会に園長が参加し、社会福祉事業全体の動向や情報の収集に努めている。必要な情報は、リーダー会議で説明し、常勤と非常勤の職員が参加する職員会議の場で、職員に周知している。職員会議は現在、月1回開催しているが、全体の様子が見えにくくなった時は、以前のように月2回開催することを考えている。また、記録の共有システムの導入を考えている。	

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b ○ ○
--	-------------

【コメント】

人材の確保や育成を課題としている。関連する短期大学からは毎月実習生の受け入れを継続しているが、学生数も減少していることから、他校からの実習生の受け入れも行っている。職員会議でも課題を説明し、職員から出身校の情報を入手している。建て替えに伴い借入金もあり、法人だけでなく園でも計画を立てている。子どもたちにも、自立訓練のため、光熱水費の無駄をなくすことを話している。現在は仮設の園舎のため、子どもたちや職員の動きがよく見えているが、建て替えが終わり、ユニットの生活が始まると見えなくなる部分が出てくる可能性もあるため、細かな引き継ぎを行い、報連相を強化していく予定である。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	b

【コメント】

中・長期計画としての書面は作成していないが、7年前から建て替えの計画を立て、費用面や仮設の園舎の候補地探しの計画を立てている。また、現園舎の修繕も建て替えを視野に入れた計画としている。法人の理事会には園長が必ず出席し、参加が可能な時は副園長も出席して、建て替えに向けた計画の進捗状況を報告している。地域小規模児童養護施設の増設にも取り組み、現在、3ヶ所の地域小規模児童養護施設を運営している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

園舎の建て替えなどを踏まえ、法人全体で事業計画を作成している。建て替えに向けては、保育園及び児童養護施設、地域小規模児童養護施設の職員で建築定例会を開催し、進捗状況を確認している。建築定例会には、市の担当者も参加している。法人で建て替えの案内を作成し、工事スケジュールは具体的な内容を資料にまとめ、職員や地域、関係機関に提示して説明している。子どもたちにも、折々、進捗状況を伝えている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

毎年、2月頃に行事や研修について職員の意向を聴き取って、園長が事業計画を策定している。職員の「役割分担表」は、秋以降に職員に「来年度の働きに関するアンケート」を実施し、その結果を参考にして作成している。策定した事業計画は理事会に諮って決定し、職員会議で内容を説明している。職員には「年間スケジュール帳」を作成して配布している。コロナの状況もあり、事業計画は、随時及び必要時に内容を見直している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

家族には、カンファレンス開催時などに日々の様子を電話で報告したりしているが、事業計画についての説明は行っていない。年1回、クリスマス会開催の前に、法人のニュースレターを発行し、支援者や関係機関に配布している。子どもたちには、毎月、行事の案内などを記載した「こうふうしんぶん」を作成して、ユニットに貼っている。「こうふうしんぶん」では、その月の誕生者を紹介し、誕生日には調理室手作りのケーキを誕生者に作っている。誕生日ケーキは子どもの希望を聞いた手作りのケーキで、子どもたちがとても楽しみにしている。そのため「こうふうしんぶん」は、調理室にも掲示している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

毎月、クラス毎にクラス会議を開催して、日々の養育・支援の内容の振り返りを行っている。クラス会議には、呼ばれた時以外は、管理職の職員は参加しないようにしている。事例検討会議は、管理職が中心になって進行している。クラス会議の内容はリーダー会議や職員会議で全体に周知している。自立支援計画の作成会議は、年2回、自立支援担当職員と子どもの担当職員が中心になり開催している。1回目の会議には、児童相談所のケースワーカーも参加している。園全体で養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

クラス会議に引き続き職員会議を開催し、職員全体で内容を共有して、課題に対して改善策を検討している。また、クラス毎に「児童会」を開催して、子どもたちの声を聴いている。子どもたちからは、パソコンや冷蔵庫の使い方などの話があげられている。子どもたちの声を聴き、スマホの使用年齢を下げたり、小遣いの金額の調整に取り組んでいる。アルバイト代を含め、小遣いは貯金するだけでなく、使う練習にもなるよう、子どもたちに働きかけている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

園長を含めた職員の役割は表にまとめ、職員に周知している。園長はできるだけ支援現場に足を運び、コロナ禍により職員の配置が手薄な時は、自ら支援現場にも入っている。子どもたちとの関係は近く、子どもたちが事務所を訪れ、声を掛けてくることも多い。園長の不在時には副園長に、副園長も不在の場合は主任に権限を委譲しているが、園長、副園長、主任の3人全員が不在にならないよう留意している。コロナ禍の対応で、休みの時も連絡を受けることがある。災害発生時の役割についても、書面に明記している。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
-----------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園舎の建て替えに伴う打ち合わせなどが多く、外部の研修会への参加が難しい状況にあるが、月1回開催される県内児童福祉施設の施設長会には参加し、社会福祉事業全体の動向や情報の収集に努める他、遵守すべき法令などを理解するよう努めている。収集した情報は、職員会議で職員に説明し、園全体で情報を共有するようにしている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日頃より、職員の声を積極的に聴くようにして、職員とのコミュニケーションをしっかりとるようにしている。毎日の職員との関わりの中で、気になる様子が見られた時は、こちらから声掛けて話をしよう心掛けている。昇給率や手当に配慮し、子育て中でもしっかり有給休暇が取れるようにしている。また、子育てしていない職員にも配慮するようにしている。子どもたちへの物品購入や塾の利用も、一般家庭の環境と差がないように取り組み、地に足がついた支援を提供するようにしている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長と副園長、主任の3人が役割分担して、経営の改善や業務の実効性を高める取り組みを行っている。給与や加算申請など、人件費に関わる事柄は園長が担当し、措置費の請求業務は副園長が担っている。現在、事務長の配置がないことから、数字面に強い栄養士が事務面のフォローを行っている。園内に具体的な体制を構築し、園長も積極的に役割を担っている。園舎の建て替えのため、市や業者との話し合いや打ち合わせなど、園長が大きな業務に携わっている。園舎の建て替えに伴い、費用も多くかかることから、仮設の園舎でも省エネに取り組み、不必要な電気などは、こまめに消すようにしている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b

<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
(社会的養護共通)	
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員の採用は、園独自で行い、園長と副園長、主任の3人で、書類の選考から面接、実習までを担当している。求人は、ホームページや福祉人材センター、求職サポート会社を活用して行っている。人材の確保は充足するところまでには至っていないが、何とかつないできている。児童養護施設における人材確保や人材育成に関しては厳しい状況にあることを認識している。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、管理職会議を開催し、引き続きリーダー会議を開催している。管理職会議及びリーダー会議は、それぞれ3時間の時間を取って十分な話し合いを行い、園の支援方針会議として位置付けている。人事考課制度は取り入れていない。昇給などは、法人が最終的に決定している。職員の異動は、本人の希望を尊重して行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

働きやすい職場作りとして、出産後も働き続けることができる体制を整えている。職場復帰後は、1年間は泊りの勤務がないよう配慮している。有給休暇の取得については、取得目標数を掲げ、取得状況の表を作って職員に配布している。法定取得日数以上に、職員は有給休暇を消化している。園長と職員の個人面談は、希望をとり、意向調査後に実施している。気になる職員については、園長から声を掛け、個人面談につなげている。園長が心理の専門職であることから、子どもたちの養育・支援に関わる相談は日常的にあり、その都度園長が話を聴き、アドバイスを行っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員の目標管理制度は取り入れていない。県児童福祉施設協議会の中堅やリーダー研修、また県や市の虐待防止やリーダーシップの研修に職員が参加している。コロナ禍前は、新任職員向けの研修も毎月のように開催されていた。オンラインの研修なども活用して、職員は研鑽に努めている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

内部研修は、12月の人権週間に行っている。研修内容は、管理職やリーダーで決めている。これまで、外部講師を招いて、CAP(子どもへの暴力防止プログラム)やアンガーマネジメント(怒りの管理方法)などの研修会を開催している。また、内部講師により、施設内虐待についての研修会も開催している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修に参加した職員は、報告書を提出し、職員会議などで研修報告を行っている。コロナ禍前は、県児童福祉施設職員研究会が主催する研修会が、月1回開催されていて、職員が参加していた。コロナ禍後は、オンラインでの研修開催が多くなっている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

副園長、家庭支援専門相談員を担当として、実習生の受け入れを行っている。コロナ禍においても、基本的に実習生の受け入れを行い、関連する短期大学や他の学校5ヶ所くらいから、年間60名ほどの実習生の受け入れを行っている。実習生の受け入れは、就職につながることもあり、また、職員にとって勉強の場になり、人材の育成にもつながることから、今後も受け入れを積極的に行っていく予定である。子どもたちの反応は様々で、喜んで受け入れる子どももいる反面、特に年齢の上の子どもは敬遠することもある。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の意味や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに情報を公開するとともに、年1回発行する法人のニュースレターに、決算報告を掲載して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。ニュースレターは関係機関などに、広く配布している。園舎の建て替えに伴い、町内会に建て替えの説明会を行っている。また、仮設の園舎がある町内会にも、説明会を実施し、園の活動の様子や子どもたちの状況を伝えている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【コメント】

毎月、会計事務所の会計士が園を訪れ、経理や財務の状況を確認し、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営に取り組んでいる。また、第三者委員の一人が弁護士であることから、いつでも相談できる体制がある。児童相談所内の弁護士にも相談することができる。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a

<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/>	子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設)	
<input type="checkbox"/>	学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	

【コメント】

子どもたちは現在、仮設の園舎で生活しているが、仮設の住居先の子ども会にも所属して、地域のお祭りや餅つきに参加している。ただし、コロナ禍で地域の催しは中止になることが多い。ピアノなどの習い事も、仮設の住居先に変更している。子どもたちが通う学校は変更していないため、学校の友だちと園で遊ぶ機会は少なくなっている。法人のニュースレターに、現在の立て替えの状況などを写真入りで掲載し、決算報告や寄附の感謝などとともに関係機関に伝えている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

園長と副園長を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。コロナ禍の中、ボランティアの受け入れは可能な限り行っている。現在、学習のボランティアや衣類の補修のボランティア、理美容のボランティアが活動している。コロナ禍前は、個人タクシーのボランティアがドライブを行ってくれたり、生保会社がハイキングを企画していた。園の歴史は古く、大手企業や地域企業など多くの団体から、さまざまな支援を受けている。子どもたちにも、人は常に支え合って生きていることを伝え、感謝の気持ちを忘れないよう働きかけている。また、ボランティアから意見を受ける機会もあり、園の運営に反映している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所とは、年1回、連絡会を開催する他、自立支援計画策定時に連携している。小・中学校との連絡会も定期的に行っているが、コロナ禍のため、現在は家庭訪問の形で行っている。こども医療センターの医療コンサレーションも、人数を減らし、オンラインで実施している。幼稚園や小学校の保護者やPTAの集まりでは、児童養護施設の状況を紹介する他、警察署や消防署、療育センターなどとも日頃より連携している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

(社会的養護共通) □施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
(5種別共通) □地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

現在、園舎の建て替え中だが、地域小規模児童養護施設3ヶ所の子どもたちは地域で生活している。建て替え前より、園の玄関に、地域の子どもの逃げ込み場所としての黄色い旗のステッカーを貼っており、建て替え後も継続する予定である。区要保護児童対策協議会にも関わっていることから、今後も地域のニーズの把握に努めていくこととしている。

② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c
□把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
□把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
□多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
□施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
□地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

園の敷地が土砂災害警戒区域になっているため、防災対策は今後も必要と捉えている。園舎の建て替えが終わり、まずは子どもたちの生活が落ち着いてから、園として何ができるか検討していきたいと考えている。地域に向けた相談支援や災害用物資の貯蔵などには課題も多くある。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

パンフレットに理念や基本方針を記載して、職員は入職時に説明を受け周知している。年1回、研修の中で理念や基本方針の読み合わせを行っている。また、入職時には倫理綱領や規程類を配布し、子どもを尊重した養育・支援の理解に取り組んでいる。子どもたちの自立支援計画は、基本姿勢に沿って作成している。年1回、アンガーマネジメントなどをテーマにして、内部研修として人権研修を開催している。月1回開催するクラス会議では、養育・支援の実施について、課題を共有して改善につなげている。

② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○

<input type="checkbox"/>	□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

プライバシー保護に関する規程を、入職時に職員に周知している。子どもたちの居室は、高校生は個室、小・中学生は2人部屋としている。子どもたちは、一人ひとり個別に入浴している。また、面会時には、交流室を使用している。郵便物は特別なケースを除き、基本的に子どもたちに手渡すようにしている。保護者からの電話は、各ユニットに繋ぐようにしている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/>	□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ホームページやパンフレットに、理念や基本方針を掲載している。法人のニューズレターは、写真を多く使用して、行事やイベントの様子を分かりやすく伝えている。園の廊下には、行事の写真を掲示している。毎月、「こうふうしんぶん」を発行し、その月の行事の予定や誕生者を紹介している。「こうふうしんぶん」は各ユニットに貼っている。子どもたちは、園の見学を経て入所している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
<input type="checkbox"/>	□子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画は、本人を交えて、要望や希望を確認しながら、子どもと一緒に作成している。作成後には再度子どもに内容を説明して、同意を得るようにしている。また、子どもの入所時には、支援の過程を記録することも同意を得ている。自立支援計画は、入所後1ヶ月、3ヶ月に見直すこととしている。子どもの日々の様子は、ケース記録に記録している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	□施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画は本人とともに相談をしながら作成をしているが、変更時も子どもに不利益がないよう、一緒に内容を振り返りながら作成している。子どもが他施設に移行する時には、引継ぎのカンファレンスを行い、引継ぎ文書を作成して移行先の施設に提出している。子どもたちの退所に際しては、退所後の担当者を置き、退所時に子どもにも伝えている。子どもたちが22歳になるまでは、必ずアフターフォローのようにしている。退所後も定期的に連絡を取り、子どもたちの退所後の状況を確認している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもたちの声は、担当職員だけでなく、職員全体で受け止めるようにしている。年2回、担当職員と個別に話す機会を設け、子どもたちの意向や要望を聴いている。子どもたちの声や希望は、クラス会議やリーダー会議、職員会議などで話し合い、改善につなげている。自立支援計画の作成時も、子どもの意見や希望を尊重するよう心掛けている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の仕組みを整え、苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員名を明記している。苦情解決の仕組みは、子どもの権利ノートにも記載があり、子どもたちに内容を説明している。意見箱も設置していたが、現在は仮設の園舎のため設置していない。苦情の内容は業務日誌に記録して、解決までの経過を記録に残している。子どもや家族からの苦情は、職員会議などで改善の話し合いを行っている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

担当職員以外でも、子どもたちが自由に相談したい職員を選んで、話ができる環境を整えている。子どもたちが直接、園長や栄養士に話をすることも多い。心理室があり、仮設の園舎だが、子どもたちが相談しやすい、意見を述べやすいスペースを確保している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもたちの声は、担当職員が傾聴している。建て替えが終わったら、以前のように意見箱を設置する予定である。子どもたちの相談や意見は、受付や報告の手順、対応について決めているが、特にマニュアルは作成していない。子どもたちの声や意見は、クラス会議や職員会議で内容を検討し、内容に応じて、LINEを使ったり、臨時に会議を開催し、迅速に対応している。

(5)	安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスク管理体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

事故の発生防止に向け、日頃より、ヒヤリハットの収集に努めている。月1回開催する職員会議で、ヒヤリハットの内容を報告し、職員間で共有して改善策などを検討している。災害の発生に備え、毎月、避難訓練や防災訓練などを行っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症の発生時は、主任から副園長、園長へと報告する体制を整えている。感染症に関する注意事項など、緊急に周知が必要な時は、LINEやメールを活用して職員に伝えている。感染症に関する外部研修を受けた職員は、職員会議などで内容を全職員に周知している。感染予防策を適切に行い、子どもたちも共有スペースではマスクを使用している。コロナウイルスに感染した子どもは隔離した部屋で過ごし、職員も防護服で対応することになっている。今回のコロナ感染症に対しては、基本的に市からの情報をもとに対応している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

毎月、防災訓練を実施している。訓練を通して、避難先や避難方法、避難ルートの確認を行っている。訓練時には、担当職員が子どもたちの人数を確認し、全員の避難を確認している。災害の発生に備え、食材や簡易トイレ、毛布、アルミシートなどを備蓄している。「備蓄ノート」にて、栄養士が管理、保管している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。 第三者
評価結果

①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

「業務実践の手引き」を作成し、標準的な実施方法を定めている。入職時の研修や個別の指導により、「業務実践の手引き」は全職員が内容を周知している。年2回、子どもたちの自立支援計画の作成、見直しを行っている。薬の保管、投与や、園内の掃除などは、チェックリストに毎日、チェックしている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

月1回、職員会議やリーダー会議、クラス会議を行う他、年2回、自立支援計画の作成会議を開催し、子どもたちへの支援方法などの検証と見直しを行っている。自立支援計画の作成と見直しは、子ども本人からの意見を聴き、子どもと一緒に次の計画を作成している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
<input type="checkbox"/>	アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

年2回、自立支援計画の作成にあたっては、アセスメント用紙にて、子どもたちの状況をアセスメントしている。児童相談所の担当ケースワーカーや主任、家庭支援専門相談員の意見も聴いている。計画書には、ニーズに合わせた具体的な支援内容を記載している。自立支援計画の作成は、担当職員だけでなく、栄養士や医師などの意見も聴いている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
<input type="checkbox"/>	自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

年2回、自立支援計画の評価、見直しを行っている。評価、見直しは、1回目を4月～6月に、2回目を9月～11月に行っている。自立支援計画の内容は職員が共有するとともに、児童相談所の担当ケースワーカーにも提出している。子どもの退所など、緊急的に対応が必要な場合は、迅速に他事業所や関係者と連携をとり、対応している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

月1回、子どもたちの成長の様子を、個別の育成記録に記録している。自立支援計画についても、毎月、状況を確認して記録に残し、次月の支援に繋げている。記録については、自立支援計画の担当職員が内容をチェックして、職員に書き方の指導を行っている。個別のファイルは、いつでも職員が閲覧できるようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもたちの個人情報の保護に努め、記録類は鍵のかかる書棚で管理し、書類の持ち出しを禁止している。保管期間が過ぎ、記録類を廃棄する時は、専門の業者に廃棄を依頼している。育成記録は主任が管理している。記録類の取扱いについては、職員の入職時に研修を行い、周知している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

権利擁護のマニュアルや運営規程を整備している。権利擁護は、児童養護施設の支援の基本であることを全職員が理解している。入職時の研修で権利擁護についての話があり、毎月の職員会議で、養育について、その方法について、具体的な事例を通し、権利侵害がないかどうかを話し合っている。特に職員の言葉遣いについては、お互いになった時はその場で「その言い方はどうだろう」と伝えるようにしている。職員間で話し合い、子どもへの声掛けが権利侵害にならないようにしている。NPO法人CAP（子どもの権利を守る団体）を活用し、職員のワークショップ（体験型のグループ学習）や子どもたちのワークショップを行っている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どものや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

子どもの入所時には、児童相談所のケースワーカーが、子どもの権利ノートの説明を行っている。また、入園のしおりを作成し、その中で子どもは守られる権利があることを説明している。しおりは、年齢によってわかりやすく言葉を変えて作成している。子どもたちには、セカンドステップ教育プログラム（1段階相互の理解、2段階問題の解決、3段階怒りの扱い）の中でも、具体的に自身の権利、友だちの権利について話し合いを行っている。今年度は、NPO法人CAPから専門の指導者を招き、子どもたちのワークショップを実施している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画作成時に、なぜここで生活をしているかについて聴き、話せる子ども、わかっていても話さない子ども、わからない子どもなど、子どものリアクションを見ながら、知りたい時のタイミングをつかむようにしている。また、小学校の先生との連携では、2分の1成人式にこんな授業を行うが、その子どもにとってどうかなどの相談があり、その子どもに合った対応をしている。入所の際に、小さい頃の写真を持ってくる子どももいる。入所してからは個々にアルバムを作り、楽しかった思い出を振り返りながら、多くの人に大切にされていることを感じてもらっている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

不適切なかかわりの防止に関しては、特に子どもへの声掛けの仕方について、常に職員間で話し合い、適切な支援ができるようにしている。職員の言葉により、子どもの心理状態に変化がないよう十分配慮している。CAPの協力を得て、ワークショップを行いながら、職員の意識向上に努めている。現在は仮設の園舎で、事務室からユニットが見える状態であるが、新園舎移行後、子どもにできるだけ目が届くようにキッチンを対面にしたり、死角が少なくなるよう、設計業者と職員が話し合いを行っている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、ケースワーカーから子どもの状況説明や記録を受け、園の会議でどのユニットにするか検討している。子どもとの面談を経て入所となるが、その間に子どもが好きな食べ物や玩具、茶わんなどの生活用品を揃え、できるだけ安心して入所できるよう準備して迎え入れている。入所当日は好きな食べ物を用意し、皆で楽しく迎え入れている。できるだけ相性の合いそうな友だちと接点を持てるようにしたり、安心感を持てるようにしている。乳児院から入所する子どもは、乳児院の職員と連携を取りながら継続した生活を送ることができるようにしている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは小遣い帳を持ち、子どもと担当職員が話し合い、ひと月の小遣いをどう使うか、貯金の額をどうするか決めている。将来のための貯金、欲しいものを買うための貯金など、子どもたちは目的をもって貯金をしている。使える小遣いで、本を買ったり、好きなお菓子を買ったりしている。小遣い帳に記録し、大きい子どもは自分で小遣いを管理している。部屋の片付けや掃除などは職員と一緒にしている。現在の仮設園舎は、ベッドではなく布団を使用しているため、自分たちで折り畳み、片付けてから登校している。浴室が狭いため、小さい子どもも一人で入浴し、職員は見守り、手の届かない所を手伝っている。高年齢になると、自立に向けたプログラムを考え、自立支援計画書に沿って、一人暮らしに向けてシュミレーションしたり、園内で一人暮らしを体験している。退所者には、退所後支援計画を作成し、連絡日など年間計画を立てている。毎年12月26日にクリスマス会を開催している。卒園児も楽しみに参加している大きな行事である。園の歴史は古く、70歳代の卒園生もいる。常に園に来てボランティアをしてくれたり、子どもたちにお菓子を寄附してくれたりしている卒園生も多くいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちがそれぞれどのような体験をして、心の中ではどう感じているかを確認しながら、職員は一人ひとりを理解し、寄り添って対応している。時には、職員に暴力を振るったり、友だちに暴言を吐いたりする子どももいる。言葉で言えない子どもが行動に出してしまうことがあるため、職員は今子どもが何を思っているかを受け止め、時間をおいて対応したり、職員を変えて対応したりしている。毎日の話し合いの中で、その子どもの心の中で何が起きているのか、対応はどうだったかを振り返っている。小さい子どもに関わっている職員の姿を見て、自分にも関わってほしいと思っている子どももいて、限られた職員数の中でどう対応するかを考えながら、子どもに寄り添い感情を受け止めている。子どもたちの希望はでき得る限り叶えられるようにしているが、どうしても無理な場合は、子どもと話し合っ説明している。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

基本的欲求の中で特に重要と考えている食事は、好きな物をバランスよく食べられるよう献立の工夫を行っている。子どもたちは、職員や調理室に直接「唐揚げが食べたいよ」など訴えてくる。調理室では、一人ひとりの好きな物を把握しており、子どものリクエストをメニューの中に反映している。仮設の園舎になってから不眠になり、医療と連携を取り安眠できるようになった子どももいる。不眠はイライラや集中力の欠如など日中生活に影響があるため、入眠時にオルゴールを掛けたり、カーテンの色を変えたり工夫しながら安眠できるようにしている。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが自分でやろうとしている時には見守る姿勢を持ち、子どもたちと一緒に考えて、生活のルールを決めている。仮設の園舎では浴室が狭いため、低年齢児の入浴も、外からの見守りを中心に行っている。入浴の順番も、子どもたちに自主的に考えてもらい、子どもたちはルーレットで順番を決めたりしている。幼稚園年中の子どもが、ハサミで紙を切る作業をしているがまっすぐ切れず、イライラしながら何度も挑戦していたが、職員は優しく見守り、できるまで待ち、できた時には大いにほめて一緒に喜ぶ関わり方をしている。言われてやるのではなく、自分で考えてやってみることを基本に支援を行っている。

④	A10 発達の状態に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状態、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

幼稚園に通園している子どもたちは、帰園してから絵本を読んでもらったり、迷路遊びをしたりしている。小・中学生はリビングで、皆で毎日17時から宿題をする時間を設けている。高校進学を目指し、塾に通っている子どもや、学習ボランティアに指導してもらっている子どももいる。高校生は自室で各自勉強をしている。学力低下の見られる子どもには、学校でも曜日を決め補習の形をとってくれている。中・高校生は野球やテニス、陸上、柔道、卓球、バスケットなど、部活動に打ち込んでいる子どもが多い。ピアノを習いに行っている子どももいる。また、バイオリンを習いたいと希望する子どもがいて、現在調整中である。小学校低学年の子どもたちは、段ボールで家作りに励んでいるなど、それぞれに応じた学習や遊びを行っている。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事作りや掃除、洗濯、整理整頓、金銭管理、健康管理などの生活習慣技術については、園内の各ユニットでの生活で習得できるようにしている。園は長い歴史の中で、大手企業や地域企業、多くの支援団体や個人の支援者がおり、社会に出る機会を作ってもらっている。プロ野球やサッカー観戦、銀行の内部見学体験、一流ホテルでの洋食のフルコース体験、バスでのハイキングなどを通して、社会規範を守ったり、食事マナーを学んだりする機会が多くある。子どもたちが卒園しても、この貴重な体験をこれからの生活の中で活かしてほしいと、感謝の気持ちとともに感じている。

(2) 食生活

① A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

栄養士や調理員も、子どもたちとの接点を多く持ち、子どもたちも直接今度何が食べたいか希望を伝えている。食べることは生きることにつながるため、いろいろな食事をおいしく食べられるよう工夫して、子どもたちに喜んでもらっている。今は調理室と各ユニットが近いため、温かいものは温かいうちに食べることはもちろん、メニューも行事食などは特に子供が喜ぶよう工夫をしている。先日は七草、鏡開きのお汁粉、七夕には星をあしらったそうめん、ハロウィンにはお化けのケーキなどを提供し、子どもたちが喜んでる。また誕生日にはその子どものリクエストメニューを取り入れ、ポケモンや新幹線などの手作りの豪華なケーキを提供している。本人はもちろん誕生日以外の子どもも大喜びで、自分以外の子どもの誕生日も心待ちにしている。昼・夕食には、支援団体から届いた旬の果物などをデザートに提供している。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

着替えの衣類は十分にあり、子どもたちは好きな物を選んで買っている。インターネットの通信販売を活用して、好きな物を選んで購入する子どもが多い。現在は古着の寄附は遠慮しているため、子どもたちは古着を着ることはない。招待を受けた時は、子どもたちはおしゃれをして出掛けている。入学式や卒業式、七五三などの特別な行事の衣服や着物は、園で準備している。衣類のポケットのほつれ、体操服のゼッケンの剥がれ、紅白帽のゴムの取り換えなどの修繕は、ボランティア団体が行ってきている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

現在は仮設の園舎であるため、不都合な部分もあるが、何とか工夫をしながら生活を楽しんでいる。ユニットの廊下には、今までの園舎の解体工事の様子の写真を掲示して、子どもたちに建て替えの状況を伝えている。新園舎は、設計の段階から園の職員と業者で話し合いを行い、子どもたちが生活しやすいよう、また、職員の目が届きやすいよう、職員の希望を入れてもらっている。今年の7月には新園舎への引っ越しができる予定で、皆楽しみにしている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

毎朝の検温や視診はユニットの担当が行い、子どもの健康状態の把握をしており、業務日誌に記録している。学校への連絡はアプリを使って連絡している。コロナ感染症が出た時には隔離して対応していたが、狭いユニットの中では限界があり、2～5日たつと次に感染者が出るという状態でユニット内に広がっていった。病気などが出た場合は嘱託医と連携を取りながら対応し「病児日誌」に記録している。基本的に首から上の怪我の場合は通院している。常時服薬をしている子どもは7人おり、薬は一包化してもらい、担当職員が投薬している。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

生と性の教育委員会があり、命を大切にすることは性教育にもつながるとして、相手を思いやる気持ちを大切にしている。テーマを決めて卒園生に来てもらい、社会人には社会での生活を、大学生には大学生活の話をしてもらっている。性に関しては、小さい子どもには絵本などで、いいタッチ、悪いタッチなどについて読み聞かせをしたりしている。性別により生活の役割を分けないなど、性差の先入観を植え付けないようにしている。生理を迎えた子どもが日頃から相談できるよう、同性の職員の配置に配慮している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

暴力や暴言、他害などが時々見られる子どもがいる。行動上に問題がある子どもには、その子どもなりの原因があるため、職員はなぜこのような行動に出たのか、きっかけは何だったのかを毎日の話し合いの中で、対応の振り返りを行っている。急に怒りだし、暴力を振るったりする子どもがいるが、振り返りの中で、家族の面会後に怒りだし暴力行為があることがわかり、児童相談所や学校の担任と連携を取りながら対応している。園ではセカンドステップの①相互理解、②問題解決、③怒りのコントロールの段階に応じて、子どもと向き合っている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

子どもたちの会話の中で、気になる言葉が出ることがある。「デブ」「うぜー」などを聞いたり見たりしたときには、言い方や相手の気持ちなどを考えてもらっている。子ども同士の関係は非常に大事に考えており、ユニット編成、特に新しく入所する子どもがいるときには十分検討している。大きな暴力行為やいじめはないが、日々の小さなもめごとは見られる。職員は子どもの話を聞き、相手の気持ちが考えられるように対応している。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

週1回、心理療法士が必要な子どもに対応している。仮設園舎の心理室で子どもの話を聞き支援している。子どもへの心理面の対応について職員にアドバイスがあり、カンファレンスの時に職員に周知し、対応に活かしている。また、園長も心理士であり、普段から心理面の見方、対応の仕方をアドバイスしている。現在、常勤の心理士を募集しているところである。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別の学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

現在は仮設の園舎のため、落ち着いて勉強ができる場所が少なく、小・中学生は17時からリビングで宿題の時間を設け、皆で取り組んでいる。高校受験に向け、塾に通っている中学生もいる。ボランティアによる学習支援を受けている中学生もいる。低学力の子どもは、学校の先生が曜日を決めて補習を行ってくれている。現在、特別支援学校に通っている子どももいる。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○

- 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。
- 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。
- 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。

【コメント】

中学生から高校生になると、進路を真剣に考えるようになる。卒園生のお話を聞いたりする中で刺激を受け、大学受験を決めて担当に相談している。進学や就職などの方向性が決まると、児童相談所のケースワーカーや保護者と相談の上、目標に向けての生活を始めている。大学進学を希望する場合は、自立支援の担当職員が奨学金や助成金の情報などを提供し、資金計画書を子どもと一緒に作成している。シュミレーションをしながら、一人暮らしの体験を園内の自立体験室で行い、大学受験に向けて準備している。今年は大学受験希望者が1人おり、進学先が決まって安心しているところである。

③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。

b

- 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。
- 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。
- 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。
- 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。
- アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。

○

○

○

【コメント】

普通高校では特に職場体験はないが、子どもたちは個々にアルバイトを見つけ、社会の仕組みを体験している。地域柄アルバイト先はたくさんあり、現在はレストランや寿司屋などで働いている子どもがいる。アルバイトは、一人暮らしのための資金計画の中に組み込んでいる。特別支援学校に通う子どもは、学校での実習を経て、就職が決まっている。小さい頃から社会生活の経験を積むことができるよう取り組んでいる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。

a

- 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。
- 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。
- 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。
- 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。
- 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。

○

○

○

○

○

【コメント】

家庭支援専門相談員2人体制で保護者に対応している。子どもの生活の様子や学校での様子など、保護者と連絡を取り、また相談支援を行っている。学校の授業参観や運動会、園の行事などの年間計画を保護者に渡し、開催日が近づくと、具体的に案内している。保護者の約7割は面会に来るが、面会が全くない子どももいる。コロナ禍以前は、懇親会やミカン狩りなど、保護者が集まる機会もあったが、ここ2～3年は実施していない。電話連絡などができるだけ行うようにしている。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。

a

- 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。

○

面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。

○

児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。

○

【コメント】

親の引き取りたいという気持ちと、子どもの帰りたいという気持ちが一致する時は、児童相談所と家庭支援専門相談員を中心に、園全体で親子関係の再構築に取り組んでいる。園内の面会が安定してきた段階で、外出体験を行っている。家への外出体験の前には、児童相談所のケースワーカーと家庭支援専門相談員が家庭を訪問し、家庭の状況を確認している。受け入れの態勢が整っていれば、家への外出、園内での親子の宿泊体験、家での宿泊体験につなげている。引き取りたいと言いつつも、行動が伴わない保護者もいて、親子関係の再構築は、年に1～2件となっている。